

宇部・山陽小野田消防組合 消防DX基本計画【概要版】



宇部・山陽小野田消防組合消防DX基本計画[概要版]

計画策定の目的

社会情勢(人口減少、少子高齢化、災害の激甚化)に対応するために、デジタル技術を活用して住民サービスや業務効率化を推進し、住民にわかりやすく、身近な行政機関としてデジタル・トランスフォーメーション(DX)を進めるため、消防DX基本計画を策定しました。

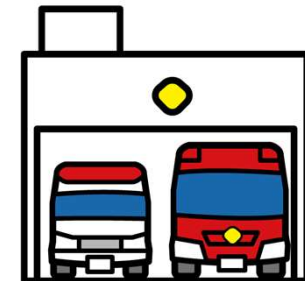
計画の位置づけ・計画期間

【第二次宇部・山陽小野田消防組合基本計画、第二次実行計画及び消防DX基本計画期間】

区分	年度	令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度	令和9 (2027)年度	令和10 (2028)年度	令和11 (2029)年度	令和12 (2030)年度	令和13 (2031)年度	令和14 (2032)年度
基本計画		9年間								
実行計画		前期実行計画(3年間)			中期実行計画(3年間)			後期実行計画(3年間)		
消防DX基本計画		社会情勢や国、県の動向、本消防組合の施策の成果などを踏まえ必要に応じて期間の見直しを行います。 (計画策定期間を含む)								

消防を取り巻く環境の変化

気候変動による災害の激甚化や南海トラフ地震の脅威に対し、効果的な消防体制の確立が求められています。同時に、消防行政のデジタル化も求められており、ICT技術等を活用した業務改革を通じて、複雑多様化する災害対応ときめ細やかな住民サービスの向上を図る必要があります。



宇部・山陽小野田消防組合消防DX基本計画[概要版]

基本理念

住民が豊かな暮らし(安心・快適・便利)を実感できるまち

基本方針等

基本方針	施策	具体的な取組(例)
基本方針① 住民サービスの向上	①-1 災害対応の迅速化	<ul style="list-style-type: none"> ・消防指令システムの更新 ・映像通報システムの導入 ・救急医療情報システムの導入
	①-2 手続き・講習等のオンライン化	<ul style="list-style-type: none"> ・手続き・アンケート等の電子化 ・研修・講習等のオンライン化
	①-3 情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの活用 ・デジタルサイネージの導入
基本方針② 職員の業務効率化	②-1 BPRの取組推進 <small>※ BPR～業務プロセスの最適化</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務量分析調査、業務の再構築 ・共通事務の集約化 ・事務処理方法の見直し・統一(手引きの作成等)
	②-2 業務システムの導入・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・電子決裁、電子契約の導入 ・台帳の電子化 ・装備品・資機材管理の一元化
	②-3 AI・RPAの導入 <small>※ AI～人工知能</small> <small>※ RPA～ロボットによる業務自動化</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの活用 ・定型・定期事務におけるRPA導入
基本方針③ DX推進に向けた基盤整備	③-1 情報化基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・PC、タブレットの導入 ・情報セキュリティ対策の強化 ・庁内Wi-Fiの整備
	③-2 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・テレワークの推進 ・会議のオンライン化
	③-3 デジタル人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の活用 ・eラーニングの活用